

「プログラム実施にあたって専門委員会としての共通認識」について

児童館より企画提案のあった遊びのプログラムは、下記のこと留意して実施する。

1. 遊びのプログラム実践の目的（事業の目的）

時代のニーズに応えた遊びのプログラムの開発・発展・改良に挑戦する児童館が、自ら提案した遊びのプログラムについて、子どもの成長発達段階にどのような効果をもたらすかなどを意識しながら、企画の段階から実践まで子どもや地域と一緒に取り組み、その一連の過程について検証・分析することを通じて、遊びのプログラムの開発・発展・改良につなげていくことを目的とする。

したがって、単なるイベントの実施ではなく、以下に掲げる4つの視点などを踏まえつつ、そのプログラムの狙い、期待した効果などが得られたかどうか、得られなかったとすればどういう要因があったのかなどの調査分析につなげられるよう検討しながら実践する。

2. プログラムの実施に際して基本に置いて欲しい4つの考え方（視点）

○「遊び」とは

自分が「楽しい」と感じることを自分の「意思」で積極的に行うことによって、気づかないうちに自分自身を心身ともに健やかに育成することができるもの。

○「地域」とは

子どもにとって様々な年齢層や立場の人々と触れ合い、関わり合いを持つことで、子どもの社会経験が積み重ねられ、社会性や公共性を得ることができる場所。また、子どもの主たる生育環境である家庭にとっても重要な場所である。

○「子どもの参画・意見表明」とは

自発的・主体的にプログラムに関わることで、日常の遊びの豊かさと、選択の自己決定を自らの考えで行うことにより、子どもの自主性や社会性の発達を促すことができるもの。

○「児童福祉におけるプログラム」とは

子どもと長期的・継続的に関わり合いを持ち、遊び及び生活を通して子どもの発達の増進を図るもの。特に発達課題を踏まえた子どもの健全育成の土台づくりなど個々の家庭や地域全体が抱える時代のニーズに対応するもの。

3. 遊びのプログラムの実施にあたっての留意事項

○当該遊びのプログラムは、調査研究を目的として実施するため、「単なるイベント」の実施にとどまらず、本来の目的を見失わないよう常に目的意識を持って実施する。

○アンケートを実施する場合は、子どもや関係者の他に地域住民などにもアンケート調査を実施して、地域における児童館の立場や役割なども検証する。また、プログラム実施の際は、可能な限り地域の人々を巻き込んで実施する。

○児童館職員や関係者が企画・準備した遊びのプログラムを、そのまま子どもたちにやらせるのではなく、子どもの発達や意欲を考慮したうえで、企画・準備の段階から子どもたちを積極的に参加させて、子どもたちが主体的・積極的に取り組むプログラムとして実施するよう心がける。

○児童福祉施設である児童館が実施する遊びのプログラムであるため、遊びを通して子どもの発達を促進し、個々の家庭や地域全体を視野に入れながら子どもの生活を支援するという視点を忘れずにプログラムを実施する。

○複数のプログラムで構成されている企画を実施する児童館は、特に単なるイベント実施にならないよう注意する。

また、実施に際しては、それぞれのプログラムを単に実施し評価するだけでなく、実施するプログラムに「子どもの参画や地域との関わり合いなど」予め共通の目的や評価の視点を設けて実践し、報告書作成の際に企画全体の統一的な評価や、プログラムごとの比較・分析ができるよう各プログラムの全体としての役割や関連性を意識して実施する。

○児童館は18歳未満のすべての子どもを対象としていることから、配慮を必要とする子どもの対応や中高生の参加なども考慮して実施する。

4. 報告書作成にあたっての留意事項

①以下の点に留意して報告書を作成する。

・「遊びのプログラム実践の目的」を常に意識して実施し、報告書が「企画を実施した単なる感想」とならないよう注意する。

・プログラムの目的や検証が曖昧な報告書にならないよう注意する。

(※特に複数のプログラムを実施する場合は、それぞれのプログラムを実施して評価することに併せ、プログラム共通の目的や評価の視点による統一した全体の評価や、共通の評価基準を用いた各プログラムの比較・分析などを実施する。)

・分析や検証については数値化や定量化などを用い、比較検証しやすい報告書を作成する。

②以下の点を参考に検証する。

・児童館でプログラムを実施することの有効性について検証する。

・実施前、実施期間中、実施後において「何」が変化したかを検証する。

・子どもや保護者、地域住民、児童館職員、他組織など様々な関係者へアンケートを実施し、結果の集計・分析をする。

・当該プログラムと、今までに実施してきたプログラム及び自他の児童館を問わず今までに実施された類似しているプログラムをそれぞれ比較・検証する。

・プログラムの実施状況について動画や静止画で映像化し記録する。

・実施したプログラムに関して課題や反省点、さらには改善の方向性を明らかにする。